

根域制限栽培圃場の早期成園化実証 ①

(西日本豪雨災害からの災害復旧モデルとして)

宇和島市吉田町の農家が、西日本豪雨災害の復興モデルとして、根域制限栽培に取り組んでいる。自動液肥混入システム（マルチ+点滴灌水・施肥）と環境モニタリング装置を活用し、水管理と施肥コントロールを行い、早期成園化を目指している。



実証圃場の概要

品種：南柑20号(カラタチ台、2年生、192本)
面積：1,447㎡（植栽間隔1.5m×1.5m、作業通路2m）
目標：高品質果実生産と労働生産性の向上

環境モニタリング装置

気温、湿度、地温、土壌水分、降水量等を測定。
スマホ等でリアルタイム閲覧可能。

点滴灌水施設

環境に対応した水分・施肥コントロール



根域制限栽培の様子



環境モニタリング装置

実証内容

- ①根域制限による果実品質の向上（水分コントロール）
- ②園内道設置による作業効率化の実証（直線的な栽植など）
- ③マルチなどを活用した早期成園化（施肥コントロール）
- ④所得向上（正品率向上）